みはらのじまんや〈三原村拠点ビジネス推進協議会〉

高知県幡多郡三原村

http://miharanojimanya.com/



店舗概要

創業年 2012年(平成24年)

売場面積 93.2 ㎡(28.2 坪)

従業員 4.0人

営業時間 8:00~19:00

定 休 日 年中無休

商品構成

・グロサリー 69.0%

• 青果 9.1%

• 精肉 6.0%

・その他 15.9%

経営方針

地域住民の生活支援並びに生きがいや賑わい(コミュニケーション)を創るオンリーワン店舗

買物弱者対策で創られ地域住民には無くてはならない買物拠点

高齢化が著しい村の唯一の総合食料品店

平成 22 年に村でただ一つ残っていた生鮮食料品店が廃業した。平成 23 年に三原村商工会が住民に対するヒアリング調査を行い、住民ニーズを把握した。その結果、買い物弱者対策として「三原村拠点ビジネス推進協議会」が主体となって、平成 24 年に販売店舗「みはらのじまんや」を開設することとなった。日用品をはじめ、魚・肉の生鮮食品、野菜・惣菜などの直販所、特産品販売所としての機能を果たしている。開店後 4 年を経た今では、三原村の住民には無くてはならない買物拠点となっている。買物がしたくても買物に来ることができない高齢者等を支援するために、週 5 日の御用聞き宅配サービスの実施や、福祉団体の協力により、買物サービスとして高齢者を店舗まで送迎していただいている。店舗は 30 坪弱で決して広い店では無い。品揃えできるアイテム数は限られている。店内に無い商品を求めるお客様には、翌日にはなるが、商品を調達して渡している。経営面では商工会が支援を行っている。POS データの解析、効果的 POP の作成、買いやすい店舗レイアウト、季節商品等の提案型陳列等に取組み成果を発揮している。地域密着型店舗である。

特売日やお客様感謝イベントを積極的に行い買物の楽しみを提供

毎月第3金曜日は特売日。その日限りの特価で最寄品を中心に売出しを行う。1年に2回(8月・12月)はお客様感謝イベントを開催して、特価での販売だけでなく、景品等を用意して利益の一部をお客様に還元している。そのイベントと同時に開催される「ふるさと市」では、村内各集落のグループのみなさんが、自慢の逸品を出品し、露店で販売する。村内だけだはなく、村外からの来客もあり、当店の売上アップに繋がっている。三原村は、どぶろく特区に指定されており、美味しいお米として評価されている村内産のお米を使ってどぶろくを製造している。村内7軒の農家が独自のどぶろくを製造しており、年2回のイベントでは、これら「幻のどぶろく」も販売する。

村のインフォメーションであり観光の拠点となる地域では数少ない雇用の場

当店は単なる買物拠点ではなく、村内外から多くの人が集まってくる場所でもある。村のインフォメーションとして村民には生活情報、来村者には村の特産品や観光情報を提供している。野菜や惣菜、そして特産品の売場はいわゆる農産物直売所であり、100 名近い生産者が農産物や加工品を販売している。農家にとって大切な収入源である。村外からの観光客が最も多く立ち寄る場所にもなっている。三原村産の野菜やお米を知ってもらい、買っていただくことができ、さらには農産加工品のテストマーケティングの場所としても活用している。当店は三原村の地域ブランド創出拠点でもある。食育の観点から、親子料理教室等のイベントを開催し、住民のコミュニティを創出する場所ともなっている。最も期待されているのが、村内では数少ない「雇用の場」としての存在である。現在はパートも含めて5名の職員を雇用しているが、事業が拡大することによって、より多くの雇用が可能となる。まさに創出の活動拠点と言える。



食品を中心に生活に必要な商品を品揃え



年2回開催されるお客様感謝イベント